

Best Available Copy

特許協力条約

Rec'd PCT/PTO 15 SEP 2005

REC'D 09 JUN 2005

WIPO

PCT

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

代理人

江上 達夫

様

あて名

〒104-0031

日本国東京都中央区京橋一丁目16番10号

オークビル京橋4階 東京セントラル特許事務所内

10/521965

PCT

国際調査機関の見解書

(法施行規則第40条の2)

[PCT規則43の2.1]

発送日

(日.月.年)

07.6.2005

出願人又は代理人

の書類記号 030972PCT

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/JP2005/003289

国際出願日

(日.月.年) 28.02.2005

優先日

(日.月.年) 03.03.2004

国際特許分類 (IPC) Int.Cl.⁷ G11B20/12, 7/0045, 7/007, 20/10

出願人 (氏名又は名称)

パイオニア株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
☐ 第II欄 優先権
☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
☐ 第VI欄 ある種の引用文献
☐ 第VII欄 国際出願の不備
☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

18.05.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

小林 大介

電話番号 03-3581-1101 内線 3591

5Q

3354

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-10	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	2-7	有
	請求の範囲	1, 8-10	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-10	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

請求項 1, 8-10

文献1: J P 2003-323767 A (株式会社リコー)

2003. 11. 14, 段落【0089】-【0098】、第4, 8-11図

には、ディスクに書き込むデータ量が所定量を超えたかどうかを判定し、超えていない場合には、延長したクロージャ（本願の第1の境界情報に相当。）を書き込み、超えている場合には、通常の大きさのクロージャ（本願の第2の境界情報に相当。）を書き込む技術が開示されており、さらに、延長したクロージャは、通常の大きさのクロージャのバッファゾーンを延長して構成される技術、つまり、通常の大きさのクロージャは、延長したクロージャの延長したバッファゾーン（本願のストップブロックに相当。）を除いて構成される技術が、それぞれ開示されている。

引用文献1に記載された発明を、ディスク装置の技術分野において周知である複数層を有する情報記録媒体に適用することは、当業者にとって容易である。

また、引用文献1に記載された書き込むデータ量が所定量を超えたかどうかの判定を、ディスクの空き容量による判定とすることは、奏する効果に格別な点は見いだせず、当業者が適宜決定し得た設計的事項にすぎない。

請求項: 2-7

引用文献1は、ディスク装置の技術分野における一般的技術水準を示す文献であって、請求項2-7に係る発明は、国際調査報告で列記した文献のいずれにも、記載も示唆もされていない。